

ユネスコ無形文化遺産「近江のケンケト祭り長刀振り」

昨年、ユネスコ無形文化遺産「風流踊」の1つとして登録された、下新川神社(長刀振り・かんこの舞)と小津神社(長刀振り)に伝わる「近江のケンケト祭り長刀振り」(国指定重要無形民俗文化財)。祭礼にともなう伝統芸能の伝承に向けた弾みとなりました。

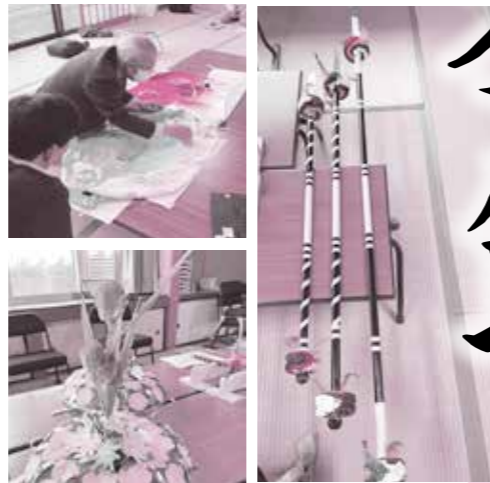


←ユネスコ無形文化遺産の登録を契機に、下新川神社ではかんこの面や衣装などが新調されました。

小津神社でも、太鼓打ちの衣装や長刀行列小道具などが新調されました。

新しい衣装のお披露目は来年のお楽しみです。→

幸津川町で新調された衣装と小道具



長刀まつりで新調された長刀と小道具

下新川神社の祭礼に伝わる伝統芸能の「長刀振り」は60年ほど前から形骸化してきてしまい、子どもが減ってきた近年では、衣装を着て行列に加わるだけのようになっていました。約60年ぶりの長刀振り(踊り)復活を目指して、地域の子どもたちが猛練習中。祭礼当日は、26人が復活した長刀振り(踊り)を披露する予定です。

日本遺産「琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産—」鮎ずし切り神事



今年、下新川神社の祭礼に伝わる「すし切り神事」の大役を担う若松 尚輝さんと丈達 一嘉さんは、ビワの葉をふなずしに見立てて、包丁さばきや所作の練習に余念がありません。

先輩たちのアドバイスを受けながら練習する若松さんと丈達さんは「息を合わせてできるよう、一生懸命に練習しているので先輩や観客に見に来てほしい」と、当日への意気込みを話していました。

祈りの季節

守山三大まつりなどGW春のお出かけ

守山三大まつり



長刀まつり

小津神社(杉江町)
3年ぶりの開催
大林町・欲賀町・森川原町が当番
8基の神輿が練り歩く

約1、450年前、欽明天皇のころに琵琶湖の氾濫により湖中へ流失した神霊を迎えた際、氏子たちが踊りを奉納したのが、このまつりの始まりと言われているとされています。

例年5月5日に小津神社とその周辺で奉納されます。小津・玉津の両学区11町で順番に踊りを担当し、8年に1度、当番が回ってきます。なお、長刀振りを披露しない当番地域もあり、今年は長刀行列や長刀振りはありません。神輿3基、子ども神輿5基が午前11時30分ごろに小津神社を出発して、小津若宮神社(赤野井町)まで練り歩きます。



すし切りまつり

下新川神社(幸津川町)
ユネスコ無形文化遺産構成要素
国指定重要無形民俗文化財
日本遺産「すし切り神事」

すし切り神事は約2、000年前、崇神天皇の皇子、豊城入彦命が幸津川を訪れたときに、琵琶湖でとれたフナの塩づけを焼いてさしあげたのが始まりとされています。5月5日には拝殿前の広場にかみしも姿の若者2人が座り、長い箸と包丁を使って子持ちのふなずし10匹を切り分け、神前に供えます。定められた古式の作法にのっとり、大きな動作でゆっくり切るのが特徴です(午後1時~予定)。

すし切り神事後、古式を残すかんの舞が奉納されます。また、長刀振りが約60年ぶりに復活して、25人が踊りを披露します。



豊年踊り

馬路石邊神社(吉身4)
3年ぶりの開催
市指定無形民俗文化財

昭和30年代まで、毎年5月13日に奉納されてきましたが、昭和40年代から衰微しました。その後、有志の努力により昭和51年に保存会が結成され、復活しました。歌詞や踊りから、元は、中世の田楽の系統と考えられます。現在は毎年、5月4日・5日に奉納されます。玉津村史によれば、元は小津神社の祭礼に属していたと伝えられていますが、吉身が独立した祭礼を行うようになった経緯は定かではありません。踊りは太鼓持ちと太鼓打ちが中央、周りで音頭取り、稚児が輪をつくり、音頭取りの歌詞に合わせて舞い、奉納されます。歌詞は小津神社の祭りと共通ですが、節回しがやや異なります。

その他 春の例大祭 見どころ

コロナ禍を経て、市内の多くの神社でゴールデンウィークに祭礼が営まれます。各地域で大切にしている祭りの一部を紹介いたします。

もち搗き神事

若宮神社(中町)
春の例大祭前日となる5月4日に、田植えなど農繁期に向けて体力をつけ、絆を深めるために行われている伝統行事です。今年はずきあがったおもちの会食はありませんが、縮小しながらも4年ぶりに復活。午前11時ごろから「もち搗き唄」に合わせて2臼をつきます。

旧街道を練る神輿

大宝神社(栗東市)
5月4日の例大祭は、神輿行列が午後2時ごろから大宝神社を出発し、焰魔堂町の諏訪神社まで旧中山道を、焰魔堂町・伊勢町・二町町・阿村町の氏子によって稚児・宮座を先頭に若宮神輿が練り歩きます。その後には大宮、十禅の順に神輿が続きます。

松明組春の出番

大宝神社の境内ではサンヤレ踊りも披露されます。
勝部神社(勝部二丁目)
火まつりで有名な勝部神社ですが、5月3日の例大祭でも午後1時ごろから松明組若衆などが担ぐ神輿と子ども神輿が神社を出発。御旅所で式典の後、勝部、梅田町を巡行します。

お満さん神輿

樹下神社(今浜町)
「お満灯籠」の伝説が残る祭礼です。5月5日、午前10時30分ごろから、約100人の行列が小太鼓、子ども神輿、花神輿、お満さんがたらい舟に乗った盃神輿、大太鼓の順番で5基の神輿が町内を練り歩きます。

宵宮渡し

天満宮(小浜町)
小浜町の宵宮渡しは5月4日午後6時から始まります。5日の本祭(本宮渡し)と同じ道程で天満宮から八幡宮まで、独特の歌を歌いながら神輿を背負って練り歩く予定です。神輿の担ぎ手不足の中、コロナ禍で縮小していた祭礼を元の形に戻して受け継ごうと奮闘しています。